

デジタルビジネスを支えるために進化した 統合システム運用管理「JP1 V11.1」

ビジネスのデジタル化が加速するなか、企業には環境変化に迅速・柔軟に対応できる業務システムが求められています。そこで日立は、デジタルビジネスを支える新機能を盛り込んだ統合システム運用管理JP1の最新版V11.1をリリース。お客さまの新たな価値創出を支えながら、より複雑化する運用管理の最適化を可能にします。

業務システムも変化への 迅速・柔軟な対応が必要

20年以上にわたり、国内トップクラスの実績を誇るシステム運用管理ソフトウェアとして市場をけん引してきたJP1。その最新版となる「JP1 Version 11」は、多様化するお客さまニーズに対応するため、「自動化」「可視化」「俊敏性」「最適投資」「伸縮自在」といった現在の運用管理に求められる要件に合わせて進化し続けています。

現在のビジネスは、デジタル技術でイノベーションを創出する企業の台頭により、企業間競争がこれまでの業界の垣根を越えてますます激化しています。さまざまなユーザーニーズの変化に迅速に対応して競争を勝ち抜くためには、企業のサービスやそれを支える業務システムも、変化への迅速・柔軟な対応が必須要件となります。

そこで日立は、お客さまのデジタルビジネスを支えるため、「業務実行基盤のさらなる強化」「業務システムの健全性の維持」「業務システムの運用最適化」をコンセプトとした機能強化版JP1 V11.1をリリースしました。

JP1 V11.1の特長

■業務実行基盤のさらなる強化で、 ジョブ運用を一段と容易にします

JP1 V11.1では、1日数十万件規模のジョブ実行性能を備え、クラウド時代の

システム安定稼働を支えるジョブスケジューリング製品「JP1/Automatic Job Management System 3(以下、JP1/AJS3)」の機能をさらに拡充。デジタルビジネスへの対応強化を図りました。

デジタルビジネスでは従来のようなスケジュール型の業務処理に加え、何らかのイベント(新商品の入庫、新規のお客さま登録、キャンペーンの開催など)にともなうオンデマンド型のサービスが増加します。そうした場合にも継続的な性能向上と業務改善を実現できるよう、JP1/AJS3のWebコンソール画面上にガントチャート表示を新たに追加。担当業務の進捗状況や遅延の有無などを視覚的に把握できるほか、過去実績との比較も行えるため、実行スケジュールの監視・改善がさらに容易になりました(図1)。

また、サービスの高度化にすばやく

対応するため、既存システムとの連携が容易なREST API※1の対応範囲も拡充。外部のサービスとスムーズに連携できるため、お客さまニーズに対応した適切なサービスをスピーディーに実現することが可能です。

さらに、複数エージェントへのジョブ同時実行にも対応。サーバリソースの増強にともなうエージェントの増加を自動で認識し、ジョブ定義を修正することなく、全エージェントでジョブを同時実行できるため、さまざまな環境下での柔軟なジョブ運用を支援します。

※1 Webアプリケーションインターフェースの一種。OSによらずHTTP経由で連携が可能で、柔軟に変化する環境への適用が容易になる

■業務システムの健全性を維持し、 安定したサービスを支えます

仮想化やクラウドなどの利用で構成が複雑化するITシステムにおいて、システム全体の稼働状況を把握・分析し、安定稼働を支援する「JP1/

ガントチャート表示を並べれば、視覚的に過去実績と比較ができます。より良いサービスを提供するために役立ちます。

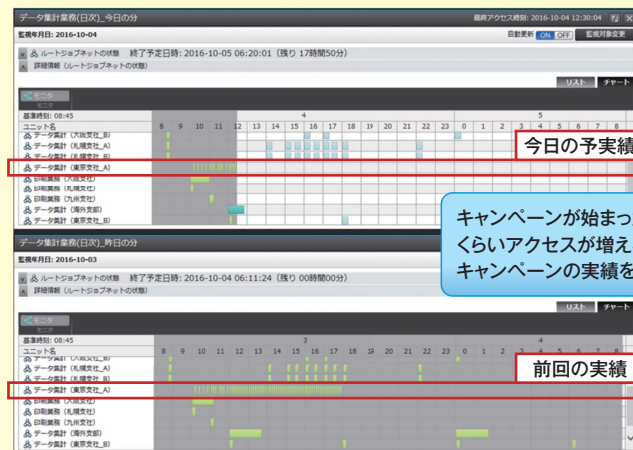


図1 実績比較による業務の改善

Operations Analytics」を強化しました。従来のサーバやストレージ、ネットワークなどのITインフラ層における構成の可視化に加え、新たにジョブ実行基盤やデータベースなどのミドルウェア層の構成とITインフラ層との関係性も1画面で可視化できます。

これにより、業務システム全体における健全性の把握や、システム障害発生時における一次切り分けなどを運用管理者と業務管理者それぞれの視点で容易に行えるため、的確な初動対応と障害復旧時間の短縮が可能になります(図2)。

■業務システムの運用を最適化し、高度化するサービスに対応します

ビジネスのデジタル化でますます高度化するサービスを継続的に維持・発展させるためには、運用負荷と人的ミスの低減が重要な課題となります。そこで日立が長年にわたって培ってきたJP1/AJS3の業務運用ノウハウを適用した「運用最適化ソリューション」を新たに提供。システム運用の最適化とコスト削減を支援します。

具体的には、JP1を熟知した日立の技術者が、お客さまの運用に適した業務運用プロセスの標準化と、煩雑な手作業の自動化を実現するシステムを構築。システム運用部門の担当者には、これまでミスを防ぐために実施していた「手順書確認」や「報告書の作成・報告」などの定型作業を簡素化する環境を、また管理者には、利用部門からの要求件数や作業遅延の有無、期限の順守率など、自ら



図2 業務システムの健全性を可視化

設定した運用に関するKPI※2を一目で確認できるポータル画面を提供するなど、お客さまのニーズに合った運用最適化をきめ細かくサポートします。なお、これらを迅速かつ容易に実現する実行基盤として、SaaS型ITサービスマネジメントServiceNowを活用しています。

※2 Key Performance Indicator

産業・社会インフラ分野もJP1で運用管理

いま製造業や電力、ガス、水道、交通といった社会インフラにおいても、

IoT※3やビッグデータ解析から得られた情報を、装置のモニタリングや運用制御などに活用するITとOT※4の融合が急速に進んでいます。JP1は、こうした幅広い分野の運用管理の最適化に役立つツールとして広がりつつあります。これからも日立は、産業・社会インフラにおける運用管理の強化、機械学習やビッグデータ解析の適用による障害対処の高度化や自動化に向け、JP1をさらに進化させていきます。

※3 Internet of Things
※4 Operational Technology

お問い合わせ先

HCAセンター (Hitachiカスタマ・アンサーセンター)

☎ 0120-55-0504

携帯電話、PHS、一部のIP電話などフリーダイヤルがご利用いただけない場合は、ダイヤルイン:045-762-3059(通話料金はお客さまのご負担となります)
受付時間:9:00~12:00,13:00~17:00(土・日・弊社休日を除く)

■ 情報提供サイト

<http://www.hitachi.co.jp/jp1/>